

基地から派生する被害



◆騒音被害

市と県では、市内8カ所に騒音測定器を設置しています。

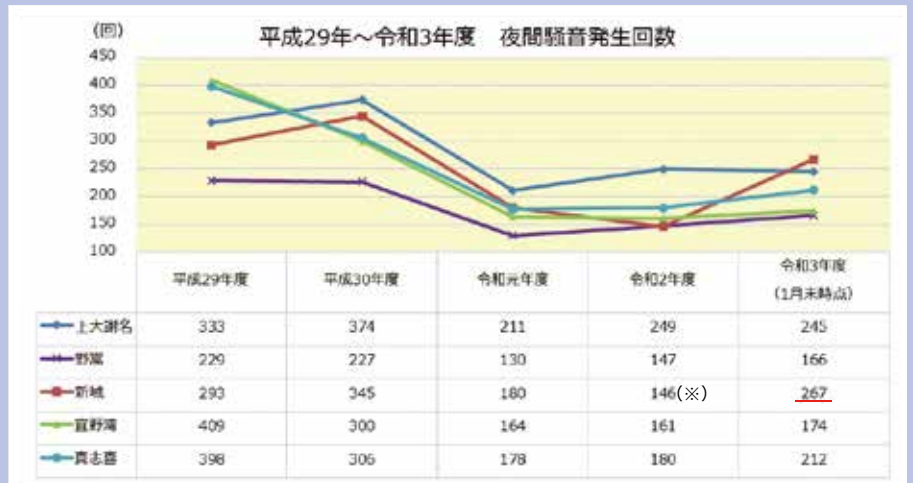
測定基準

- ・騒音値が暗騒音レベル(環境騒音)より10dB以上大きいもの
- ・騒音が5秒以上継続するもの
- ・航空機が発したトランスポンダ応答信号電波を受信したもの

滑走路の延長線上に位置する地域では、米軍機の離着陸に伴う騒音の影響が特に大きく、上大謝名局では、年間で**12,721回**(令和2(2020)年度)の騒音が記録されています。

市が飛来禁止を求めている時間である22時から翌朝6時までに、米軍機が飛行し、度々騒音が測定されており、市民からも夜間騒音に関する苦情も数多く寄せられています。

令和3(2021)年度(1月末時点)においては、新城局で**267回も**の夜間騒音が確認されています。



※令和2(2020)年度の新城局の測定期間は4月から8月までとなります。

◆地上デジタル放送受信障害

【受信障害例】左：画面の乱れ 右：ブラックアウト



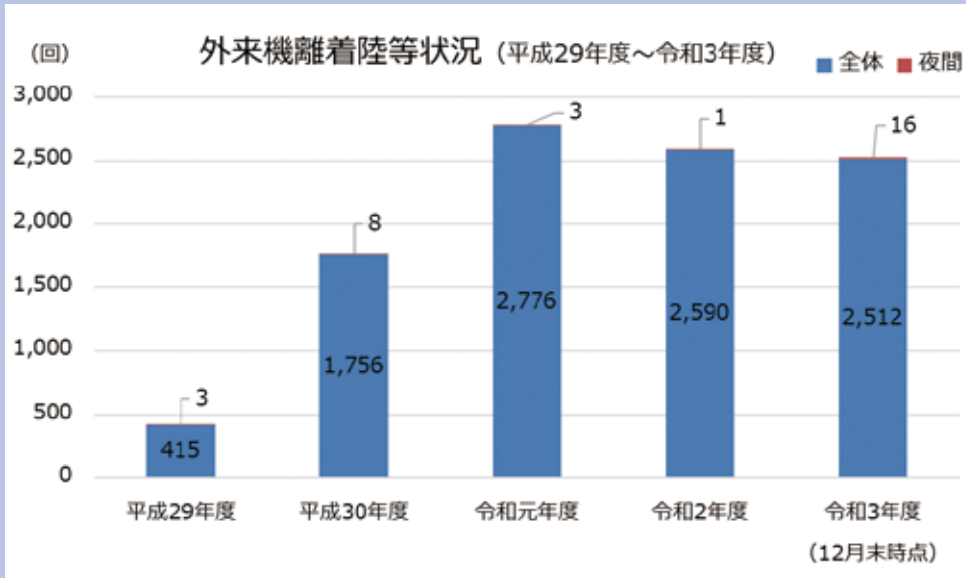
【家屋調査の様子】令和2,3年度実施



米軍機が住宅地上空を通過すると、テレビが一時的に映らなくなる等の受信障害が発生するといった苦情が寄せられていたことから、平成23(2011)年度に障害が認定された野嵩・普天間・新城の一部区域について、防衛省の補助金を活用し、対策を実施しました。

しかしながら、その後も市全域から同様の声が寄せられていることから、令和2(2020)年度より家屋調査、令和3(2021)年度より対策工事を実施しており、引き続き米軍機が起因する地デジ受信障害の解消に向け取り組んでまいります。

◆外来機飛来 (外来機：普天間飛行場に所属する常駐機以外の機種)

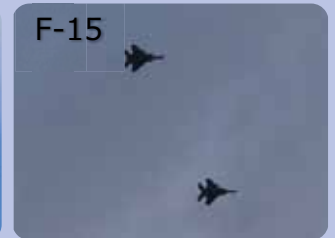


外来機の飛来は住民生活に大きな影響を及ぼすことから市としては容認できないとし、飛来しないよう強く求めておりますが、令和3(2021)年度においても飛来が相次いでいる現状にあります。外来機は離着陸を繰り返すタッチアンドゴー訓練や、100デシベル以上の非常に大きな騒音が測定されるなど、騒音被害は深刻な状況です。

主な外来機飛来 (令和3(2021)年4月～12月)

固定翼機・回転翼機			
P-8	612回	KC-130	139回
UC-12	602回	セスナ機	70回
MV-22	360回	KC-135	48回
UC-35	331回	HH-60	38回

戦闘機	
F-35	81回
FA-18	20回
F-15	14回



基地被害110番

宜野湾市では昼夜を問わず基地から発生する騒音等の苦情について、夜間や休日、職員の勤務時間外にも対応できるよう、「**基地被害110番**」を設置し、24時間苦情を受け付けております。

令和3(2021)年度からは、苦情受付電話の他に、メールや市ホームページでの受付を開始しました。市へ寄せられた苦情は全て市長まで目を通し、沖縄防衛局及び米軍へ送付し、市民生活へ配慮するよう申し入れを行うとともに、市長による抗議・要請行動の資料として活用しております。



【苦情受付先一覧】

電話番号

098-893-4400

メールアドレス

Kichi02@city.ginowan.okinawa.jp

ホームページ受付フォーム

<https://www.city.ginowan.lg.jp/soshiki/kichi/2/1/1/1/9642.html>

ホームページ受付フォームはこちらからもアクセスできます ▶



◆事故等の危険性

普天間飛行場所属機による事故・予防着陸等

159回（平均：約3回/年）

※件数は本土復帰から令和4（2022）年1月末までに集計



最近の主な普天間飛行場所属機の事故等（令和4（2022）年1月末時点）

発生年月日	事故の概要
平成29年10月11日	CH-53Eヘリが飛行中の火災により北部訓練場外に緊急着陸し、その後機体が炎上。
12月7日	市内保育園の屋根で上空からの落下物と思われるCH-53Eヘリの部品を発見。
12月13日	普天間第二小学校グラウンドにCH-53Eヘリの窓（約1m四方、重さ7.7キロ）が落下。
平成30年1月6日	UH-1Yヘリが飛行中にメインローターの回転速度超過を示す警告表示により、うるま市伊計島の浜辺に緊急着陸。
1月8日	AH-1Zヘリが飛行中にテールローターのギアボックスで微小な電氣的事象を検知し、警告灯が点灯したため、読谷村内に予防着陸。
1月23日	AH-1Zヘリが訓練中に警告表示を受け、渡名喜村内のヘリパッドに予防着陸。
2月8日	うるま市伊計島の海岸に、前日飛行したMV-22オスプレイ右側エンジンの空気取り入れ口の部品が漂着。
4月18日	UH-1Yヘリ1機の警告灯が点灯し、熊本空港に予防着陸。
4月25日	MV-22オスプレイがコックピット内の表示を受け、奄美空港に緊急着陸。
8月14日	MV-22オスプレイがコックピット内の警告灯点灯のため奄美空港に予防着陸。
9月5日	UH-1Yヘリがコックピット内の警告灯点灯のため久米島空港に予防着陸。
10月25日	MV-22オスプレイが奄美空港に予防着陸。
平成31年2月6日	AH-1ヘリが警告灯点灯のため、予防着陸。
3月27日	MV-22オスプレイがコックピット内の警告灯の点灯のため、沖永良部空港に着陸。
4月1日	MV-22オスプレイがコックピット内の警告灯の点灯のため、伊丹空港に着陸。
令和元年6月4日	CH-53Eヘリのブレードテープ（ヘリコプターのブレード前縁を保護目的としたゴム製の保護テープ）の一部が落下。
8月27日	CH-53Eヘリ1機が普天間飛行場に帰投した際、後方の客室の窓が遺失していることを発見。
9月4日	UH-1ヘリ1機が誤って北部訓練場返還跡地内の旧ヘリパッドに着陸。
10月21日	CH-53Eヘリが予定された給油のため種子島空港に着陸したが、その後メンテナンス上の問題が発生。
10月26日	AH-1Zヘリが不具合を起こし、旧種子島空港に予防着陸。
令和2年2月25日	CH-53Eヘリが機体外に吊り下げて海上輸送していた物体が不安定になり、トリイ通信施設の西側約1300mの海上に意図的に投下。
令和3年4月15日	MV-22オスプレイが徳之島空港に緊急着陸。
6月2日	UH-1Yヘリは、パイロットが機械的な問題の可能性を感知したため、津堅島の私有地に予防着陸。
7月13日	CH-53Eヘリが、出砂島射爆撃場から物資を運び戻す際、吊り下げていたトリプルコンテナが水域に落下した。
7月24日	UH-1Yヘリは、ギアボックスをチェックするため、エマージェンシーを宣言し、関西国際空港に予防着陸。
7月27日	AH-1ヘリが鹿屋空港から約20海里東にある農地に予防着陸。
8月12日	MV-22オスプレイ1機が、機体のパネルやプロペラのエンジンカバーを遺失していると判明。
10月20日	CH-53Eヘリは、注意が必要な兆候に気づき、粟国空港へ予防着陸。
11月23日	MV-22オスプレイから市内住宅地に個人の水筒が落下。
令和4年1月13日	AH-1ヘリが油圧システムに漏れがあると察知し、渡名喜島へ予防着陸。

平成16（2004）年8月◆沖縄国際大学への米軍機ヘリ墜落事故



平成16（2004）年8月13日（金）午後2時15分頃、普天間飛行場に派遣されていた米海兵隊所属CH-53D型ヘリが沖縄国際大学の本館に墜落、炎上するという重大事故が発生しました。事故機は、我如古上空で尾翼部分（テールローター）が落下し、操縦不能になったまま沖縄国際大学本館ビルに墜落、激突後激しく炎上しました。ヘリに搭乗していた米軍関係者3名が負傷し、民間人への人的被害は確認されなかったものの、民家29戸、車両33台等の物的被害が確認されています。

平成29（2017）年12月◆普天間第二小学校への米軍機ヘリ窓落下事故

平成29（2017）年12月13日（水）午前10時25分頃、米軍普天間飛行場所属CH-53E型ヘリの窓（約7.7キロ）が普天間第二小学校のグラウンドに落下するという重大事故が発生しました。事故当時、窓が落下した地点からわずか10メートルほどしか離れていない場所では体育の授業が行われていました。市の抗議・要請に対し、米側からは「できる限り小学校上空を飛行しない」との発表がありました。事故から約1ヵ月後に小学校上空でのヘリの飛行が確認されています。事故後小学校では、ヘリの飛来を確認するための監視カメラとモニター、監視員が速やかに設置・配置されるとともに、ヘリからの落下物を想定した避難訓練も実施されています。また平成30（2018）年8月には、監視員にて生徒が自主的に避難できるよう屋根付きの避難所が完成しました。



令和2（2020）年4月◆泡消火剤漏出事故



令和2（2020）年4月10日（金）16時頃に普天間飛行場内格納庫において消火システムが作動し、PFOS等を含む泡消火剤約6万ガロン（約22万7千リットル）が漏出するという重大な事故が発生しました。そのうち約3万8千ガロン（約14万4千リットル）は、基地外へ漏出し、大量の泡が公道や住宅街に飛散したことから、住民生活へ大きな影響を与えました。

翌日11日（土）、被害が大きかった下流の宇地泊川では、本市消防が泡消火剤の除去作業にあたりました。